プログラム解説

○　ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第１４番嬰ハ短調ｏｐ．２７－２「月光」

ベートーヴェンの３２曲のピアノ・ソナタの中で、最も有名な作品です。特に第１楽章の冒頭から魅了され、誰云うともなく「レマン湖（スイス）に映る月光のようだ」と語られました。この曲が『月光』と呼ばれるのは、そのためです（ベートーヴェンは単に「幻想的ピアノ曲」としか述べていません）。またその美しさのために、夜の道すがらの窓辺の「盲目の少女」のためにこの作品をしたためたというエピソードも、まことしやかに語られていたこともあります。いずれも、第１楽章冒頭の美しさを讃えたものですが、第３楽章ではうって変わって大変激しく、高い次元へのドラマに発展してこの曲の幕を閉じます。

第１楽章　アダージョ・ソステヌート　　第２楽章　アレグレット

第３楽章　プレスト・アジタート

○　ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第１７番ニ短調ｏｐ．３１－２「テンペスト」

１８０２年に作曲されました。ベートーヴェンの難聴が進み、かの有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれ、それと共にベートーヴェンが過去の自分と決別し音楽的に大きな飛躍を始めた頃です。タイトル名となっている「テンペスト」は、シェイクスピアの戯曲の題名です。「この曲を理解したいのなら、『テンペスト』を読みなさい」とベートーヴェンに云われたと、或る弟子が語ったところから、この副題が付きました。従ってこの曲もベートーヴェン自身が名付けたものではありません。しかしそもそも、副題が名付けられたものはそれなりの理由（わけ）が有り、名曲が多いのもまた事実なのです。

第１楽章　ラルゴ　－　アレグロ　　第２楽章　アダージョ　　第３楽章　アレグレット

○　リスト：愛の夢～３つのノクターン～　Ｓ．５４１

なんといっても、第３番が「愛の夢」と称されて最も有名な作品です。結婚式の定番として昔から大変名高いもので、おそらく聴いたことがないという人は希でしょう。小曲ですが、素晴らしい曲だと思います。これら３曲は、元来は「ソプラノ又はテノール独唱のための３つの歌曲集」として書かれたもので、リストが後にピアノ独奏用に編曲したものです（自作のみでなく、「ピアノの魔術師」と呼ばれるリストは、他の作曲家のものも含めたくさんの曲をピアノ独奏用に編曲しています）。全３曲のうち第１番・第２番は滅多に演奏されることがないので、こうして３曲まとめてとりあげられるのは珍しいことであり、大変興味深く思われます。

第１番　変イ長調「高貴な愛」　　第２番　ホ長調「私は死んだ」

第３番　変イ長調「愛しうる限り愛せ（愛の夢）」

○　リスト：ラ・カンパネラ（パガニーニによる大練習曲集第３番）嬰ト短調　Ｓ．１４１－３

これも、リストお得意の編曲物です。「ラ・カンパネラ」とは、「鐘」のこと。日本でもフジ子・ヘミングさんや辻井伸行さんの演奏で、大変有名になりました。リストは、不世出の大ヴァイオリニストであるパガニーニに影響され、６曲から成る「パガニーニによる大練習曲集」を作曲しました。「ラ・カンパネラ」はその大３曲目に当たり、パガニーニのヴァイオリン協奏曲第２番の第３楽章を編曲したものです。黒鍵を効果的に活用しトレモロも多用して、ピアノの高音の美しさを強調しています。

○　ワーグナー（リスト編曲）：イゾルデの愛の死　Ｓ．４４７

ワーグナーは、後期ロマン派として位置づけされていますが、近代音楽に大変大きな影響を与えた大作曲家でした。当時はブラームスと大きく人気を２分し、ヨーロッパ中を席巻しました。そのワーグナーの作品の中でも、１，２にあげられる大傑作が、歌劇『トリスタンとイゾルデ』です。この「イゾルデの愛の死」は、終幕に流れ

る同曲からリストが編曲したもので、「これぞ、音楽！（ザ・音楽！）」ともいうべき崇高な音の世界が、ピアノによって繰り広げられます。（ちなみに、ワーグナーは娘コジマをリストに嫁がせています。）

○　リスト：バラード第２番ロ短調　Ｓ．１７１

演奏される機会やＣＤもそう多くない、リストの佳曲です。この曲は今回のチラシ裏面に外山啓介さん自身が述べておられるように、ピアニスト立ち直りのきっかけとなった曲とのこと。どんな曲なのか、またどんな演奏をされるのか、とても楽しみです。なおタイトルやアイデアは、ショパンの影響を受けているとのことです。